

「安心・活力・発展プラン2005」 活力部会 委員発言に対する対応状況

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
1	農林水産業	トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。県外にも多く出荷している。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思う。	活力-1-②(農林) 活力-18-①(企画)	農林 企画
2		・大手スーパーで大分の食材を大々的に売り込む話があったが、産地との調整で頓挫したと聞いている。県がタイアップするとか、卸業者を含めて団結して取り組みれば、やれるのではないか。	活力-1-②	農林
3		かぼすヒラメ、かぼすブリなど県外に発信しているが、地域の業界にも地産地消の情報を教えてほしい。どこにいけば手に入るのか、我々旅館も使えるのか、流通はどうか、などを教えてほしい。	活力-2-①	農林
4		かぼすブリなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。	活力-2-①(農林) 活力-13-②(企画) 活力-18-①(企画)	農林 企画
5		・スーパーに直販のコーナーがあるのは非常に良い。スーパーと直販がうまく機能している。もっとうまくやっていると、さらに地域の食材が一般の家庭レベルに伝わっていく。	活力-2-①	農林
6		・地産地消で県民向けにPRしてもらいたい。ブランド化で県外には頑張ってPRしてもらっているが、県民が知らないのではないか。	活力-2-①	農林
7		園芸用ハウスのリース事業は現在大分県農業農村振興公社が事業実施主体でしてくれているが、本来は農協がしてくれるといい。指導はできないか。	活力-2-② 活力-3-③	農林
8		担い手への優良農地の斡旋が必要と思う。早い段階で仕組みづくりを。	活力-2-②	農林
9		・ある程度の規模がなければ後継者は生まれにくい。最低50頭規模以上の経営体を育成してもらいたい。そのために、リース畜舎は取り組みやすい形であるので、進めて欲しい。	活力-1-③	農林
10		就農学校の取組は県内各地で始まり卒業生が就農しているが、まだまだ少ない。もっとスピードを上げて新規就農者を確保していかないと、今の人口減少社会では担い手の確保が追いつかないのではないか。	活力-3-②	農林
11		農業でも一定規模になると雇用が必要。働ける人口の少なくなった農村部が活力を取り戻すためには、一緒に働いてくれる外国人労働者、実習生の力を利用していかなければならないと思う。	活力-3-②	農林
12		・国は企業参入を進めているが、大分県は70%強が中山間地で条件不利地域。そういうところには企業参入は難しく、地域の農地は地域の住民が守って行かなければならない。そうすると集落営農だが、経営の実態は補助金・交付金頼み。自立できるように経営改革が必要である。	活力-1-③ 活力-3-①	農林
13		・農業は経営者と労働者が一緒。農業の将来を考えた場合、経営者と労働者を分離して、雇用型の農業を志向していく必要があるのではないか。	活力-1-③ 活力-3-①	農林
14		・営農組織を作って農地を守って行きたいと考えている集落も多いと思うが、集落・組織を引っ張っていくリーダーがいらない。	活力-3-①	農林
15		・県内には相当数の集落営農組織があるが、女性の組合長は一人もいない。女性の組合長、理事、役員がいても良いのでは。女性の活力の育成が必要。	活力-3-①	農林
16		・農業は事業継承がうまくいっていない。経験豊富な農家と新しく就農しようとする人をうまくマッチングする仕組みを作ってはどうか。良いところを受け継ぎながら、ITの活用など新しい技術も積極的に使っていくことも必要。	活力-3-② 活力-1-③、④	農林
17		・肉用牛農家も、ある程度の規模で経営していても後継者がいないところがある。その場合は就農希望者とのマッチングが必要ではないか。また、新規就農対策と後継者対策を一緒にやっていると、後継者対策も進むのではないか。	活力-3-②	農林
18		・技術・経営管理を磨く場を積極的に作ってもらうとともに、規模に応じた研鑽のための部会を作ってほしい。経営規模に応じた部会でなければ、悩みの解決方法が出てこないのではないか。	活力-3-①	農林

「安心・活力・発展プラン2005」 活力部会 委員発言に対する対応状況

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
19	農林水産業 商工業	・地域の活性化には6次産業も必要。ただ、研修会では自己完結型の話が多い。農業者はものを作ることはプロだが、売るという能力は劣っているように思う。販売や加工にノウハウを持つ地域の食品企業と連結した取組が重要ではないか。	活力-1-②(農林) 活力-5-②(商労)	農林 商労
20		・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。	活力-2-①(農林) 活力-5-②(商労) 活力-7-④(商労)	農林 商労
21		・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。	活力-1-④(農林) 活力-5-①(商労) 活力-7-④(商労)	農林 商労
22		新たに起業しようとする人は機械が欲しくても値段が高くて買えない。水産研究部の施設は古く、稼働率も低いように思える。設備、場所を提供してほしい。小さな産業を大事にしてもらいたい。	活力-1-④	農林
23	農林水産業 商工業	・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るという意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。	活力-2-①(農林) 活力-11-①(商労)	農林 商労
24	農林水産業 ツーリズム	・地元の宿や施設が、地元の食材を使い、それを自慢しながらお客さまに召し上がっていただく活動が、足元でとても大切。食材と地元施設とのマッチングをやってもらいたい。	活力-2-①(農林) 活力-13-②(企画)	農林 企画
25	農林水産業 海外戦略	トマトの海外輸出はこれから考えていかなければならない。	活力-1-①	農林
26	農林水産業 食育	大分県の食材にはいいものが多いが、料理そのもののレベルが高いとはいえない。レストランなどでの新しいメニューの開発、県産品を使ったものなど、メニュー開発の奨励や支援をしてはどうか。	活力-2-①	農林
27		・地元小学生に話を聞くと、地元産品であるブリの印象がかなり低い。そんなこともあり、小学生の工場見学を受け入れて、県産品のアピールを積極的にしている。学校給食でも県産魚を使ってもらっている。遠回りかもしれないが、小さい頃から教えであるとか、親しみを感じさせることで、県産品の消費につながっていくのではないか。	活力-2-①	農林
28	商工業	・従来もやっているが、ビジネスインキュベーションセンターをもっと活用すべき。インキュベーションとベンチャーファンドの連携をもっと密接にして、技術と経営、それをバックアップする金融が一体化することによって新たな創業ができればよくなる。	活力-7-①、③	商労
29		県内には優秀な人材はいるが、マネジメントができる人、管理者になれる人が少ない。人に指示できたり、物事を的確に整理するという能力を教育できないか。	活力-7-④	商労
30		・CSRは対外的なことばかりじゃなくて、社内でリーダーを作っていくのに非常に有効なので、取組を進めてもらいたい。	活力-7-②	商労
31		企業の経営者がもう一つ上の段階を目指す時の教育・経験が足りない。大分は1億円以下の会社が多い。1億円、3億円になれるような経営者向けの教育支援はできないか。	活力-7-②	商労
32		人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと聞いている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてうまく作り出していく意識が必要ではないか。Iターン・Uターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。	活力-5-③、⑤ 活力-6-①	商労
33		・ワークライフバランスの実現を妨げていることに、長時間働くことが熱心に働いている証拠だという価値観が、まだ抜けていないこともある。若い人の意識はかなり変わってきたが、上に立つ経営者や幹部の方の意識が変わらないと実現しないので、その取組が何かできないか。	活力-11-③	商労
34		・女性を積極的に活用するために、会社内に託児所を作りたいと思っているが、保育士を雇うとなると色々な面でハードルが高い。近所のおばあさんを雇って運営できるような規制緩和を支援してもらえないか。	活力-11-③	商労
35		県内の人を採用した企業にメリットがあるような施策を組んでもらえないか。	活力-6-①	商労
36	佐伯はアパート・マンションの価格が高く、若い人がなかなか家から独立できない。地元の新卒者を採用した場合のメリットを付加するというのはいい案。就業後3年を目安にして、支援ができないか。	—	商労	

「安心・活力・発展プラン2005」 活力部会 委員発言に対する対応状況

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
37	商工業	外国人労働者の受入れについて、今はハードルが高い。専門的知識を持っていて、日本人よりも優秀な人にしかビザがおりない。外国で教育を済ませた人を連れてこれるような仕組み、外国人がブルーカラーで働ける施策はないか。	活力-11-①	商労
38		・5年間地元の高校の新卒者を採用してきたが来年度はゼロ。少子化の波が来ている。水産加工組合は人を欲しがっているが人がいない、という状況。外国人研修生を受け入れないと、産業を継続できない。受入れ側の人へのヒアリングをして、現状を知って欲しい。	活力-11-①	商労
39		・ビックデータの活用を積極的に取り組んで欲しい。活用案のコンテストのようなものを開催して、良いものは事業化するのはいかがでしょうか。チャレンジして新しいサービスを開発していけるような環境ができると良い。	活力-9-① 活力10-②	商労
40		・メガソーラーをやっているが、九州電力の再生可能エネルギーの買い取り中断の影響は大きい。エネルギーの出口戦略や将来を見据えた戦略を考えておかなければならない。	活力-8-①	商労
41		事業をするときに大分の産業をうまく使うような仕組み、もしなければせめて国内のものを使うといった施策ができないか。	活力-7-④	商労
42		・坐来は味や場所も良く、評判が良い。ただし、物産の展示や販売がなく、情報発信が少ないのではないか。	活力-9-②	商労
43	商工業 芸術文化	・今のものづくりはデザイン性が問われる。そこにヒントがあるのでは。アートと工業を組み合わせ、工業デザインで特色を出すというのも良いのではないか。	活力-7-④	商労
44	商工業 教育	・小さな頃からITとか理系科目に親しめるよう、小さな子供向けのプログラミングの勉強会などを増やしてほしい。	活力-10-②	商労
45	ツーリズム	・ツーリズム戦略ができたことで、来年のDC誘致という目標を達成できた。情報発信もでき、これからは売り込みへの段階。今度は、2020年の東京オリンピックに向けて、中期的なツーリズム戦略をやっていたきたい。	活力-13-①、② 活力-18-②	企画
46		旅は個人化、少人数になる傾向にあり、滞在型になっている。目的・テーマを持っている人が多く、高級志向が増えている。これからはひとつの拠点をもって、そこから面的に広げていくスタイル、アクティビティコースを充実させることが大切なのではないか。	活力-13-②	企画
47		女性とアクティブシニアをターゲットにしたコース作りをしてみてもどうか。出雲大社縁結びのようなパワースポットは大分にも一杯ある。うまく伝えていって地域に呼び寄せてはどうか。	活力-13-② 活力-18-①	企画
48		・観光客を受け入れるにあたり、サービス業のおもてなしのレベルに差がある。サービス業の人材を育て、おもてなしのレベルを統一するために、サービス検定の実施や勉強会を開催してはどうか。	活力-13-②	企画
49		・観光の面でおもてなしのレベルを一定以上に上げていくことが重要。一定規模の業者には県内で統一したサービスが提供できるように支援してはどうか。	活力-13-②	企画
50		・おんせん県おおいとの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用して欲しい。	活力-13-①、② 活力-18-①	企画
51		・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないか。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないか。	活力-13-②	企画
52		・外国人の観光客へのケアもまだまだ進んでいない。統一してみんなで情報発信できるといいが。	活力-13-① 活力-18-②	企画
53		湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30~40分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。	活力-13-② 活力-18-①	企画
54		地産地消は魅力。地元の食材を使った料理、地元のお酒、麦焼酎。おんせん県おおいのウィーク、マンスリーとかを作って、大分みんなで一緒になって稼ぐ、というのはどうか。パワーを集中させて情報発信していく。	活力-13-② 活力-18-①	企画
55	2次交通について、別府には一日乗り放題のぐるすば号(路線バス)がある。平成23年にスタートし25年で乗客が2倍になった。乗り合いバスで2倍というのは奇跡的。国東や県南ともつなぐことができないか。路線バスを使って活性化というののポイントになる。	活力-14-⑤	企画	

「安心・活力・発展プラン2005」 活力部会 委員発言に対する対応状況

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
56	地域づくり	・人口減少下において、老朽化施設や学校、病院などインフラの再整備が必要となってくると思われるが、財政的な制約もある。PPPだとかPFIをどうやって活用していくかも観点になるのではないかと。	PPP等については、老朽化が進行する公共施設等の再整備の手法として、現在、策定中である「公共施設等総合管理計画」の中で検討	企画 総務
57		・アート、農林水産品のブランド化、特産品の開発などは、金融面の施策としてクラウドファンディングがある。地域おこしでこの手法を活用してはどうか。	活力-15-①	企画
58		・高速道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかとという危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。	活力-13-③ 活力-15-①	企画
59		・これまで集会所を作ってきたが、今度は集会所がたくさんできすぎて、その維持管理が大変。いろんなものを作るときには、10年20年先を見据えて計画することが大事。	活力-15-①	企画
60	女性の活躍	女性の活用について、自由な時間に働くというのは大切だが、責任ある地位で働くという意味でも女性の活用も考えていく必要があるのでは。女性の方にも意識が足りない。自分の人生のやりがい、生きがいとしてきちんと職業を持つ、きちんと社会に参画していくことが大事。	活力-12-①	生環